



## 「ブルガリアローズオイルの芳香成分の仕様」

### 要約版

(原題：Specification of Fragrance Ingredients of Bulgarian Rose oil)

<ブルガリア国立バラ研究所 所蔵資料>

ブルガリアローズオイルは様々な化学構造を持つ250種以上もの成分から構成される複合体です。主要成分は含有量が最大55～65%にも及ぶ3種のテルペンアルコール<シトロネロール、ゲラニオール、ネロール>で、このアルコール類が「バラ様の香り」を決定づける芳香成分となっています。

なかでも、ブルガリアローズオイルの1/3を占めるシトロネロールは、抗アルカリ化、抗酸化、抗熱作用のある非常に安定した化合物で、この特性はオイル全体の安定性と共に、品質や香りの変化を伴わずに長期保存・使用の可能性をある程度決定づける非常に重要な要素となっています。主要成分を除いた構成成分の内、15～17%は各々の含有量が1～3%の様々な化合物からなり、さらに残りの構成成分は、その多くが0.1%程度など、1%未満の微量成分で占められています。

ブルガリアローズオイルにおけるフェニルエチルアルコールの含有量は、通常およそ2%となっており、それを基準に別の抽出方法や溶剤抽出法などにより得られた他のローズオイルと区別することができます。例えば、ロシアタイプのローズオイルのフェニルエチルアルコール含有量は70%以上、別のタイプのローズアブソリュートは55～60%以上あり、こうした化合物の芳香はバラ様ではあるが、低含有量のブルガリアローズオイルの方がよりクリアで心地よく香ります。

ブルガリアローズオイルの構成成分中のオイゲノールとメチルオイゲノールの存在は、かすかな“ぴりっとした辛み”と“オリエンタル”なノートを与え、ベースとなるローズの花束の香りをより際立たせています。セスキテルペンアルコールのファルネソールは穏やかで、心地よい、リンデンやスズラン及びローズの花々のようなフローラルノートを持ち、ローズの香りを引き立てています。

オイルの香りの特色に関わる重要なものはそれだけではありません。エステルとアルデヒド、ゲラニル酢酸、シトロネリル酢酸及びその他を主とするエステル類は、ローズの香りのベースとなる、フルーティーさやフローラルさなど、多彩なニュアンスを与えています。

さらに、含有比率が非常に小さい微量成分であっても、私たちが香りを感じ取る事の出来る重要な成分です。中でも $\beta$ -ダマセノンや $\beta$ -イオノンは、香りへの貢献度が非常に高くなっています。

精油成分を含んだブルガリアローズの花弁の中で合成され、水蒸気蒸留法で抽出される多彩で豊かな化合物。その複雑な構成が生み出すノート、ニュアンス、陰影の全てにおける極めて豊かな香りの幅、それがブルガリアローズオイルのあの完全なる芳香を創出しているのです。